

キャベツ根こぶ病に対する新規薬剤の施用効果

農業研究センター 農産園芸研究所 病虫部

研究のねらい

高冷地のキャベツ栽培では、近年、根こぶ病が発生し、発病面積は増加の傾向にある。本病は、土壌伝染病の病害で、罹病植物体内で病原菌休眠胞子が極めて多く形成されること(約10億個/罹病組織1g)や土壌中における生存能力が非常に高い(5年~7年)ために防除しにくく、また、防除効果の高い登録薬剤が少ない。

そこで、総合防除の一手段としての薬剤防除法を確立するために、新規薬剤における防除効果及び使用方法について検討をした。

研究の成果

1. 根こぶ病に対する薬剤処理は、環境条件及び病原菌密度の組織によって、効果が十分でない場合がある。新規登録薬剤のフルアジナム粉剤の土壌全面混和处理(10アール当たり40kg)は、無散布と比較して、発病株率及び発病程度が低下し、根こぶ病防除に有効である。
2. 防除にあたっては、環境条件や病原菌密度の相違により根こぶ病の発生程度が異なり、防除効果が不十分となる場合があるので、次の事項に留意し使用する。
 - (1) 薬剤は定植前に均一に土壌全面に散布し、ていねいに混和する。
 - (2) 薬剤処理後は速やかに播種及び定植を行う。
 - (3) 耕種的防除(土壌PHの矯正、排水対策、有機物施用、アブラナ以外の作物との輪作、作型の変更等)と組み合わせて施用する。

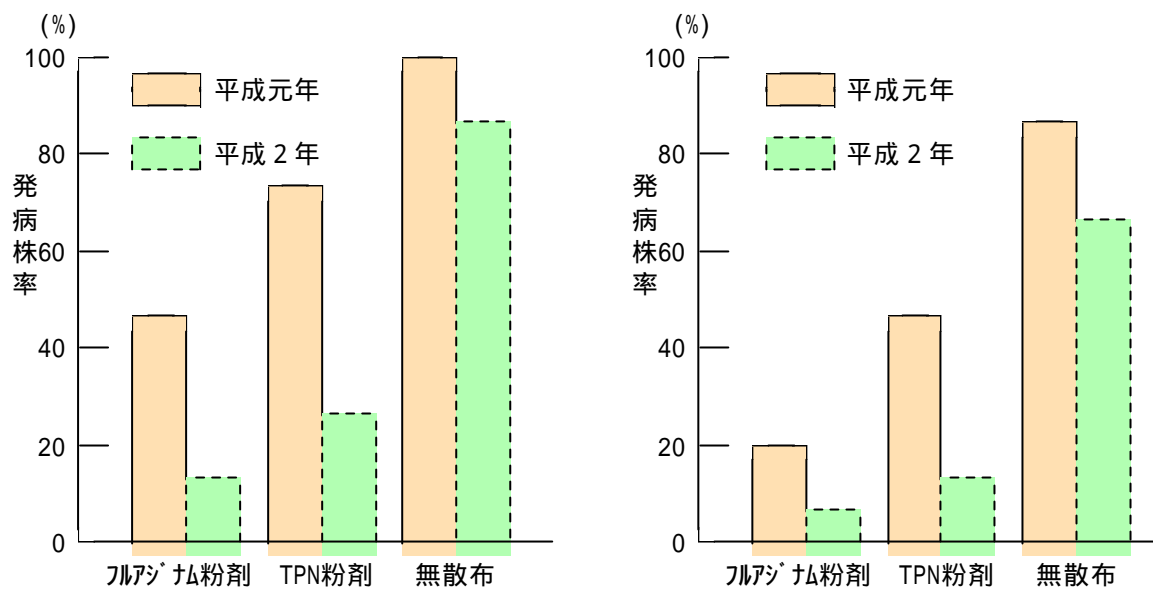


図1 根こぶ病に対する薬剤散布の効果

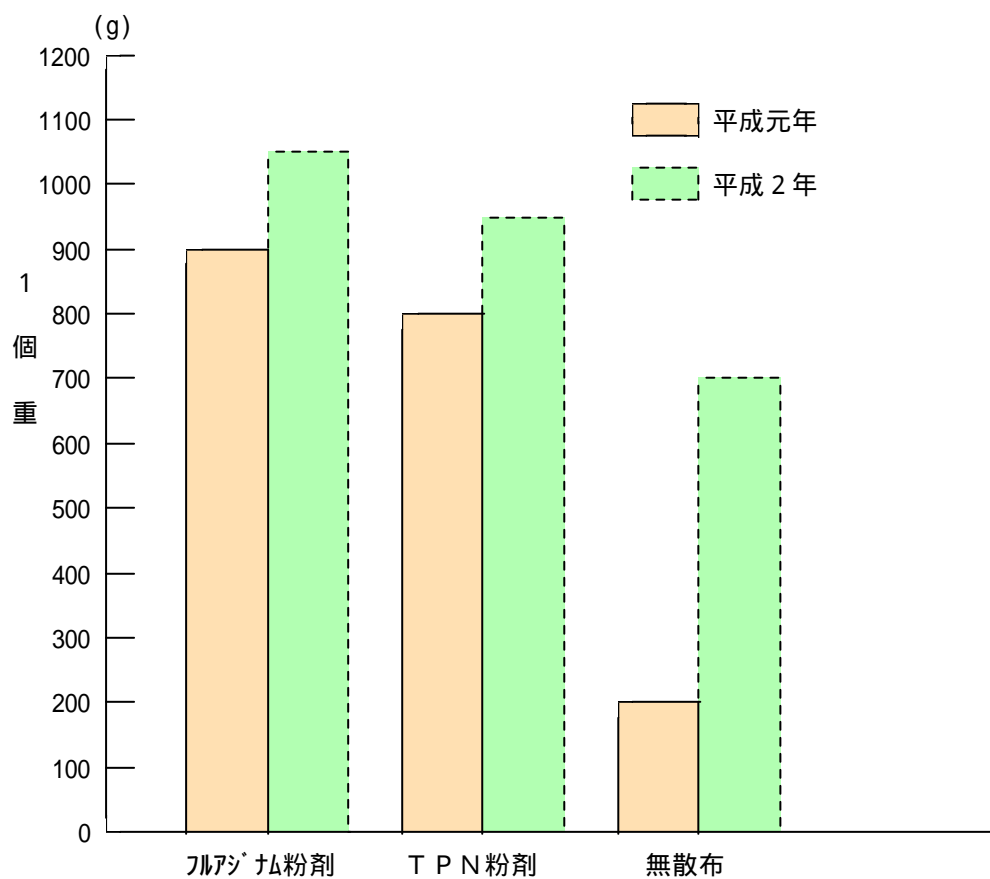


図2 収量に対する薬剤散布の効果